特別寄稿

化粧品OEM企業が切り拓く新市場―エアゾール剤型の価値と応用可能性

ピカソ美化学研究所
代表取締役社長
八木　伸夫

1．はじめに――変化する市場とエアゾール剤型への期待

化粧品市場における競争環境は、近年かつてないほどの激しさを見せている。韓国ブランドの旺盛な輸出攻勢、中国ブランドの急成長、そしてSNSを起点とした新ブランド形成の加速――こうした変化の中で、日本発の化粧品が改めて注目されるには、単なる品質の良さだけでは不十分であり、使用感・利便性・独自性を兼ね備えた差別化が必要とされている。ピカソ美化学研究所では、こうした市場環境の中、改めてエアゾールという剤型に着目し、独自の処方技術と組み合わせることで「売れる商品」の開発に挑んでいる。

売れる商品とは、単に一時的な話題性や価格競争に依存するものではない。むしろ、消費者が繰り返し手に取り、日常の中で自然と使い続けたくなるような製品であることが求められる。そうした商品を生み出すために、企業としての姿勢や研究開発体制、そして市場に対する観察眼が不可欠であり、その実践の一つが、当社が取り組むエアゾール応用の製剤開発である。

2．BOV技術による革新染毛効果と利便性を両立するヘアカラートリートメントの新提案

当社が現在、生力して提案しているのがBOVパッケ・オン・パルプ）技術を用いたエアゾールタイプの「BOVヘアカラートリートメント」（写真1）である。これは、今年5月のCITE JAPANで初披露した当社の最新提案であり、1回でしっかり染まる」独自処方が最大の特長である。

BOVは原液（中身処方）と噴射剤の二重構造で構成されているため、原液とその他の構成部材との接触がなく衛生的で、安定した吐出が粘性の高い原液でも吐出が可能なのの特性があると確信している。また、中国や韓国などアジアで、さらにはより安心・安心圏でも類似の製品はほとんど無く、海外でも競合優位性を発揮しやすい領域である。なお「軽やかヴェールUVスプレー」はPETボトル容器を採用している点も特長で、小型で持ち運びしやすく、従来の金属エアゾール製品との差別化をはかっている。

また当社では、エアゾールだけのことを実現できるプラットフォーム（泡）タイプについても、肌への密着性や感触面での優位性を備えた新しい日常の化粧品への展開で競争力を発揮できると考えて、すでに開発に着手している。エアゾールは、単なる機能性訴求にとどまらず、使用時の楽しさや快適さといった「体験価値」に重点を置いた商品設計を可能にする。これらを当社のエアゾール剤型の応用はヘアカラーにとどまらない。当社が開発提案している、アルコールフリー処方のエアゾールUVスプレー「軽やかヴェールUVスプレー」（写真2）は、顔にも髪にも使用でき、PM2・5や花粉のカット機能も備える利便性に優れた多機能型アイテムである。特に、エタノールに対する感受性が高まっている昨今の市場環境において、アルコールフリー処方は「低刺激」「安心設計」といった肌へのやさしさという価値を付加するものとして評価されており、海外展開における武器にもなり得る。中国薬系対応処方としても提案可能で、さらにはより安心・安心圏でも類似の製品はほとんど無く、海外でも競合優位性を発揮しやすい領域である。なお「軽やかヴェールUVスプレー」はPETボトル容器を採用している点も特長で、小型で持ち運びしやすく、従来の金属エアゾール製品との差別化をはかっている。

また当社では、エアゾールだけのことを実現できるプラットフォーム（泡）タイプについても、肌への密着性や感触面での優位性を備えた新しい日常の化粧品への展開で競争力を発揮できると考えて、すでに開発に着手している。エアゾールは、単なる機能性訴求にとどまらず、使用時の楽しさや快適さといった「体験価値」に重点を置いた商品設計を可能にする。これらを当社のエアゾール剤型の応用はヘアカラーにとどまらない。当社が開発提案している、アルコールフリー処方のエアゾールUVスプレー「軽やかヴェールUVスプレー」（写真2）は、顔にも髪にも使用でき、PM2・5や花粉のカット機能も備える利便性に優れた多機能型アイテムである。特に、エタノールに対する感受性が高まっている昨今の市場環境において、アルコールフリー処方は「低刺激」「安心設計」といった肌へのやさしさという価値を付加するものとして評価されており、海外展開における武器にもなり得る。中国薬系対応処方としても提案可能で、さらにはより安心・安心圏でも類似の製品はほとんど無く、海外でも競合優位性を発揮しやすい領域である。なお「軽やかヴェールUVスプレー」はPETボトル容器を採用している点も特長で、小型で持ち運びしやすく、従来の金属エアゾール製品との差別化をはかっている。

また当社では、エアゾールだけのことを実現できるプラットフォーム（泡）タイプについても、肌への密着性や感触面での優位性を備えた新しい日常の化粧品への展開で競争力を発揮できると考えて、すでに開発に着手している。エアゾールは、単なる機能性訴求にとどまらず、使用時の楽しさや快適さといった「体験価値」に重点を置いた商品設計を可能にする。これらを当社の

八木　伸夫氏

技術を深く活用することにあったのが、当社も工場を展開しているタイにおける現地の日系エアゾール充填メーカの存在である。「BOVヘアカラートリートメント」や「軽やかヴェールUVスプレー」については現地エアゾール企業の協力を得て、製剤の安定性や充填の適合性を高めることができた。これまで当社ではあまり馴染みのなかったエアゾールについて、タイ現地での充填メーカーとの協働を通じて知見を深めてきた。こうした中で、ガスの種類や圧力、ノズル形状などの適切なタイプに合わせて最適化し直され、越境ECや輸出提携といった形での新たな需要が生まれている。中国政府による輸入規制の緩和や、日本製品に対する品質の信頼感が再評価されたことも、その追い風となっている。

3．エアゾールの応用展開――UVケア、泡、スキンケアへの可能性

エアゾール剤型の応用はヘアカラーにとどまらない。当社が開発提案している、アルコールフリー処方のエアゾールUVスプレー「軽やかヴェールUVスプレー」（写真2）は、顔にも髪にも使用でき、PM2・5や花粉のカット機能も備える利便性に優れた多機能型アイテムである。特に、エタノールに対する感受性が高まっている昨今の市場環境において、アルコールフリー処方は「低刺激」「安心設計」といった肌へのやさしさという価値を付加するものとして評価されており、海外展開における武器にもなり得る。中国薬系対応処方としても提案可能で、さらにはより安心・安心圏でも類似の製品はほとんど無く、海外でも競合優位性を発揮しやすい領域である。なお「軽やかヴェールUVスプレー」はPETボトル容器を採用している点も特長で、小型で持ち運びしやすく、従来の金属エアゾール製品との差別化をはかっている。

また当社では、エアゾールだけのことを実現できるプラットフォーム（泡）タイプについても、肌への密着性や感触面での優位性を備えた新しい日常の化粧品への展開で競争力を発揮できると考えて、すでに開発に着手している。エアゾールは、単なる機能性訴求にとどまらず、使用時の楽しさや快適さといった「体験価値」に重点を置いた商品設計を可能にする。これらを当社の

4．海外市場における勝機――Made in Japanの価値再定義

海外市場、特に中国・ASEANにおける日本製化粧品への関心が、再び高まりを見せていると感じている。

エアゾールの活用を含め、海外に無い日本の製品を、積極的に紹介し、場合によっては現地の規制、使用者の文化や気候、生活スタイルに合わせて最適化していくことが、これからのグローバル展開における日本企業の新たな勝ち筋になると確信している。

5．おわりに――売れる化粧品とは何か

エアゾールを活用することで得られるメリットは、使用感や利便性にとどまらない。たとえば、今回のヘアカラートリートメントにおけるBOV技術を活用することで、空気や光に弱い成分を密閉構造の中で安定的に保持することが可能となる。これは、たとえばビタミンC誘導体などの、酸化により効果が低減しやすい成分を使用する高機能スキンケア製剤において也心用可能であり、当社ではその開発にも着手している。

売れる化粧品とは、単に短期的な売上を生むヒット商品ではなく、今までできなかった課題をクリアし、継続的に使われ、愛され、生活に溶け込んでいく存在でなければならない。その使いたい」と感じる確かな実感、使いやすさ、安心感、そして何よりも共感を得ることが重要である。

当社は、クライアントがBtoC市場で勝てる製品をともに創り上げるパートナーとして、他社にはない機能性と差別化を備えた提処力改良な案を行っている。そこにおいて、エアゾール技術――とくにBOVやPETボトル容器などの先進的な包材技術と中身の融合――は、新たな可能性を拓く手段になると捉えている。

化粧品の開発とは、人々の生活の中に感動を届ける営みでもある。その使命を胸に、当社はこれからも、技術の革新を通じて、クライアントと共に真に「売れる化粧品」の創造に挑み続けていく。

最後に、持続可能な製品供給を実現するうえで、化粧品業界全体が現在直面している課題と製造現場、とりわけ充填部門におけるA手不足がある。現在当社は、化粧品工業会とともに、化粧品業界全体の安定的な人材確保・活用策の一環として、外国人技能実習制度における「化粧品製造作業」の職種認定に向けた働きかけを行っており、すでに制度の枠組みや試験内容の検討を進め、2027年に予定される育成就労制度へのスムーズな移行も視野に入れた取り組みを行っている。この制度が認定されれば、業界全体で人材確保・活用策の一環として、外国人技能実習制度における「化粧品製造作業」の職種認定に向けた働きかけを行っており、すでに制度の枠組みや試験内容の検討を進め、2027年に予定される育成就労制度へのスムーズな移行も視野に入れた取り組みを行っている。この制度が認定されれば、業界全体で人材確保・活用策の一環として、外国人技能実習制度における「化粧品製造作業」の職種認定に向けた働きかけを行っており、すでに制度の枠組みや試験内容の検討を進め、2027年に予定される育成就労制度へのスムーズな移行も視野に入れた取り組みを行っている。この制度が認定されれば、業界全体で人材確保・活用策の一環として、外国人技能実習

的な生産体制の確立に寄与することになると考えており、当社としても引き続き、化粧品工業会とともに情報提供と支援に努めていくこと、制度設計・運用に関心のある企業はぜひ問い合わせいただきたい。

（おわり）

写真1

写真2